

Dr.W.Steven Barnett(NIEER,Rutgers)の講演②
なぜ幼児期の発達に投資するのか？

財全日本私立幼稚園幼児教育研究機構理事長 田中 雅道

*表1

コスト	リターン	倍率
• Perry Pre-K \$17,599	\$284,086	×16
• Abecedarian \$70,697	\$176,284	×2.5
• Chicago \$8,224	\$83,511	×10

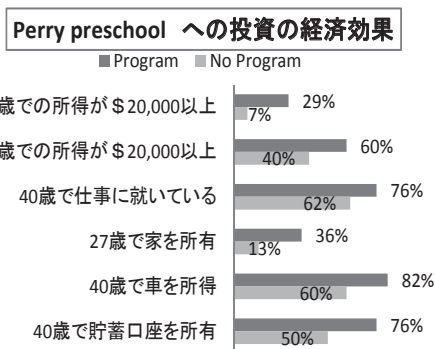
◆ 不利な子どもの乳幼児期への投資に対する経済的リターン

*表2：他の子どもへの投資プログラムの便益とコスト

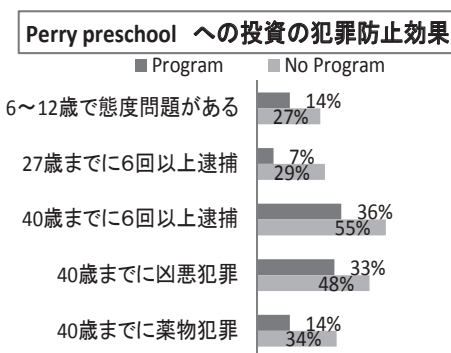
コスト	リターン	倍率
WIC(栄養教育、社会事業、食料の提供) \$958	\$2,941	×3.07
若い母親と1人目の子どもへの看護師の家庭訪問 \$6,975	\$35,288	×5.10
小学校低学年での学級規模縮小 \$8,454	\$23,913	×2.83
CPC(学級規模縮小、読書・算数・家族支援) \$3,290	\$5,457	×1.66
学年再履修 \$7,959	-\$26,434	×-3.32
若年職業訓練 \$15,141	\$19,958	×1.32

- ◆ Perry preschool への投資の経済効果
- ◆ 【結論】 経済的リターンは、とても大きくなり得る。
- ◆ リターンは多様なプログラムに共通してみられる効果にはばらつきがある。
- ◆ ソフト技能（認知、社会的／情
- ◆ どの研究でも、投資にかかったコストよりも多くのリターンを成果として上げている。（表1）
- ◆ 投資する際に、その投資に見合った成果を得られるか心配しなくてもよい。必ず投資以上の成果が出る。（表2）

*グラフ1



*グラフ2



緒的)はハード技能(言語、識字、計算)と同様に重要。(経済的観点から)

※グラフ1、2

◆ 世界各国での経済的投資効果

・ 中々低所得国家では、幼児教育サービスによる所得の増加だけで6~18倍の投資効果が推定される

・ 世界中の中々低所得国家で幼児教育への投資額を25%増加させることで、US\$1・06億の経済効果が推定される

モーション

【介入】 3~5歳児を対象に、食事・教育・運動について+教師と子どもの比が1対5・5 (vs 1対30)

【成果】 17~23歳での態度問題、犯罪、精神疾患 ↓ 栄養状態の悪い子どもほど利益は大きかった

その他、アルゼンチン、コロンビア、ドイツ、イギリス、ウルグアイなど、さまざまな経済的・社会的・文化的背景の違いにもかかわらず、幼児教育への投資の成果は同じようにみられる。

(次号につづく)